

泉「次の内閣」がスタート

「誰もが活躍できる、わが国を目指していく」と泉代表



立憲民主党は9月13日両院議員総会を開き、泉健太代表から「次の内閣」の発表があり、承認されました。

泉代表（ネクスト総理大臣）は、前執行役員の半数を女性にしたことで党務でのジェンダー平等を進めることができたと語り、「次は政策における各分野のジェンダー平等を進めてまいりたい」と述べ、「誰もが活躍できる、わが国を目指していく。そのために、みんなで一丸となって頑張りたい」とあいさつしました。長妻昭政務調査会長（ネクスト内閣官房長官）は、『「闘う次の内閣」。国民の皆さんのために徹底的に闘う』と述べました。

■立憲民主党 泉「次の内閣」名簿（2022年9月13日）

- ネクスト総理大臣 泉健太衆院議員
- ネクスト内閣官房長官 長妻昭衆院議員
- ネクスト内閣府担当大臣（災害対策・消費者・科学技術・デジタル・行政監視） 杉尾秀哉参院議員
- ネクスト総務大臣（地方創生・倫理選挙） 野田国義参院議員
- ネクスト法務大臣 牧山ひろえ参院議員
- ネクスト外務・安全保障大臣（拉致問題・ODA） 玄葉光一郎衆院議員
- ネクスト財務金融大臣（予算・決算） 階猛衆院議員
- ネクスト文部科学大臣 菊田真紀子衆院議員
- ネクスト厚生労働大臣 早稲田ゆき衆院議員
- ネクスト農林水産大臣 金子恵美衆院議員
- ネクスト経済産業大臣 田嶋要衆院議員
- ネクスト国土交通・復興大臣（沖縄北方・復興） 小宮山泰子衆院議員
- ネクスト環境大臣（原子力問題） 近藤昭一衆院議員



「次の内閣」発足号

立憲民主党 立憲民主編集部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-12-4
ふじビル3F

Tel.03-6811-2301 Fax.03-6811-2302

安倍元総理の国葬儀に 党執行役員会は全員が欠席

立憲民主党は9月15日、党本部で臨時執行役員会を開き、
9月27日に行われる安倍元総理の国葬儀には、党執行役員会全員が欠席することを決定しました。

役員会終了後、記者団の取材に応じた泉健太代表は、国葬儀欠席の理由について、「先週には閉会中審査で国民の皆さんの疑問をぶつけさせていただいた。さらに（一昨日）政府に出した質問状への回答が昨夕あったが、国会答弁の焼き直しでゼロ回答だった。これは大変不誠実で遺憾に思う。国会に諮ることもなく、内閣の独断で国葬儀を決定することを強行したことに、多くの国民が違和感や疑問、反発を覚えている。本当に残念ではあるが、わが党が指摘した問題点に何ら回答が無いことを踏まえ、執行役員会全員が一致をして、国葬儀に欠席することを決定した」と述べました。臨時執行役員会決定事項は以下の通りです。

■国葬儀欠席の決定について (2022年9月15日 立憲民主党執行役員会)

わが党の国葬に関する質問書に対する政府の回答が昨日の夕方届いた。

先日の議院運営委員会における岸田総理への質疑を踏まえ、立憲民主党は、より具体的な質問を行った。にもかかわらず、政府が総理答弁と同じことを繰り返すのみであったことは大変遺憾である。

例えば、「事前に国会に説明することなく、なぜ内閣だけで国葬儀の決定がなされたのか、これは議会制民主主義の根幹にかかわることだ」と指摘したのに対し、「丁寧な説明に努める」との通り一遍の返答がなされたに過ぎない。

岸田総理には、国葬に疑問や違和感を感じている多くの国民に本気で説明し、国葬の必要性について、少しでも理解を得ようとする意思があるとは思えない。誠に残念だが、立憲民主党が指摘した問題点については何ら解決されなかった。このため党執行役員会は、全員が9月27日の国葬儀には欠席することを決定する。

地域の 立憲民主党 全国各地での 取り組み



立憲民主党の地方組織、自治体議員が各地で実施する取り組み予定を順次掲載しています。お近くの方はぜひご参加ください。

詳しくはQRコードからご覧ください。



「生きるを考える。」 企画 豆塚エリさんインタビュー

16歳のときに自殺未遂を起こし頸髄を損傷、車いすユーザーになった豆塚エリさん。障がいを背負ったことを機に、「体はきっと生きてがるし、死を怖がる。それをそのまま味わう」と自分の命への考え方が変わったと話しています。「消えたい」「死にたい」と毎日思っていたという豆塚さんが、どのように自己肯定感を獲得していったのか、話を聞きました。

詳しくはQRコードからご覧ください。

